



国土交通省近畿地方整備局

Kinki Regional Development Bureau

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

近畿地方整備局 河川部	配布日時	平成29年 9月 1日 14時00分
資料配布	(滋賀県、京都府、京都市、亀岡市、大阪府、大阪市、高槻市、名張市 同日発表)	

件名	大塚切れ 100 年「淀川サミット」の開催 —淀川流域の首長等による将来のあり方についての議論—
----	--

概要	<p>●大正6年淀川大洪水”大塚切れ”から今年で100年となり、8月24日発表の「淀川大塚切れ100年シンポジウム」と併せて、流域の首長等で議論する『淀川サミット』を開催します。</p> <p>●淀川サミットでは、大塚切れから100年を契機に淀川流域における河川整備や水防災対策について、淀川流域の将来のあり方について首長等が議論します。</p> <p>□開催日時 平成29年10月1日(日) 10:30~12:30 □開催場所 高槻現代劇場(高槻市野見町2-33)</p> <p>※当日、取材をご希望の場合は、下記の問い合わせ先まで事前にご連絡下さい。</p> <p>●また、当日は高槻市主催による『現場式典』を大塚切れが発生した淀川右岸堤防(高槻市大塚地先)にて実施します。</p> <p>●9月4日(月)14時00分より、近畿地方整備局の会議室(新館)にて、大正6年洪水や大塚切れ、淀川大塚切れ100年シンポジウム等について記者説明をさせていただきます。</p>
----	--

取扱い	9月4日(月)14時00分 近畿地方整備局の会議室(新館)にて記者説明を実施
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、滋賀県政記者クラブ、京都府政記者室、京都市政記者クラブ、亀岡市政記者クラブ、大阪府政記者会、大阪市政記者クラブ、北摂記者クラブ、名張市政記者クラブ
------	--

問合せ先	 <p>淀川大塚切れ 100 年イベント実行委員会 <small>名張市・八幡市・草津市・守山市・宇治市・京都市・宇治市・亀岡市・八幡市・八幡市・高槻市・夜方市・寝屋川市・三島町・滋賀県・京都府・大阪府・近畿地方整備局</small></p> <p><事務局></p> <p>■高槻市都市創造部下水河川企画課 072-674-7432 (直通) <small>てらまち ゆたか にしだ ともひろ</small> 課長 寺町 豊 課長代理 西田 朋弘</p> <p>■近畿地方整備局河川部河川計画課 06-6945-6355 (直通) <small>しらい ひろあき よしだ きみのり</small> 課長 白井 宏明 課長補佐 吉田 公則</p>
------	--

淀川大塚切れ 100 年「淀川サミット」の開催について

淀川大塚切れ 100 年シンポジウムと並行して、淀川流域の各自治体首長から、改めて河川整備や水防災対策について、地域の意志として広く発信することを目的に淀川サミットを開催します。

淀川サミットでは、京都大学教授 中川 一氏（流域委員会専門家委員会 委員長）の話題提供を踏まえ、全国のタイムライン作成や総合防災アドバイザーの松尾 一郎氏の進行により、淀川流域の将来のあり方について首長等が議論します。

また、首長等からの意見を踏まえた「淀川流域の将来のあり方に向けた提言」を取りまとめます。

- ① 日 時 平成 29 年 10 月 1 日（日） 10：30～12：30 ※淀川大塚切れ発生日と同日
- ② 場 所 高槻現代劇場（高槻市野見町 2-33）レセプションルーム
- ③ 出席者 進 行：NPO 法人 環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所 副所長
東京大学大学院 情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授 松尾 一郎氏
話 題 提 供：京都大学教授 中川 一氏
出席自治体：名張市 大津市 京都市 宇治市 亀岡市 八幡市 大阪市 高槻市
枚方市 寝屋川市
- ④ 内 容 話題提供（最近の水害から学ぶ）：京都大学教授 中川 一氏
出席首長による意見交換
淀川流域の将来のあり方に向けた提言取りまとめ
- ⑤ 会議取扱 報道機関のみ傍聴可能

淀川大塚切れ 100 年イベント実行委員会 ～淀川 未来への歩み～

名張市・大津市・草津市・守山市・野洲市・京都市・宇治市・亀岡市・八幡市・大阪市・高槻市・枚方市・
寝屋川市・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・近畿地方整備局

淀川大塚切れ 100 年に関する取組の記者説明会について

大正 6 年に発生した淀川大塚切れから本年 10 月で 100 年目を迎えます。

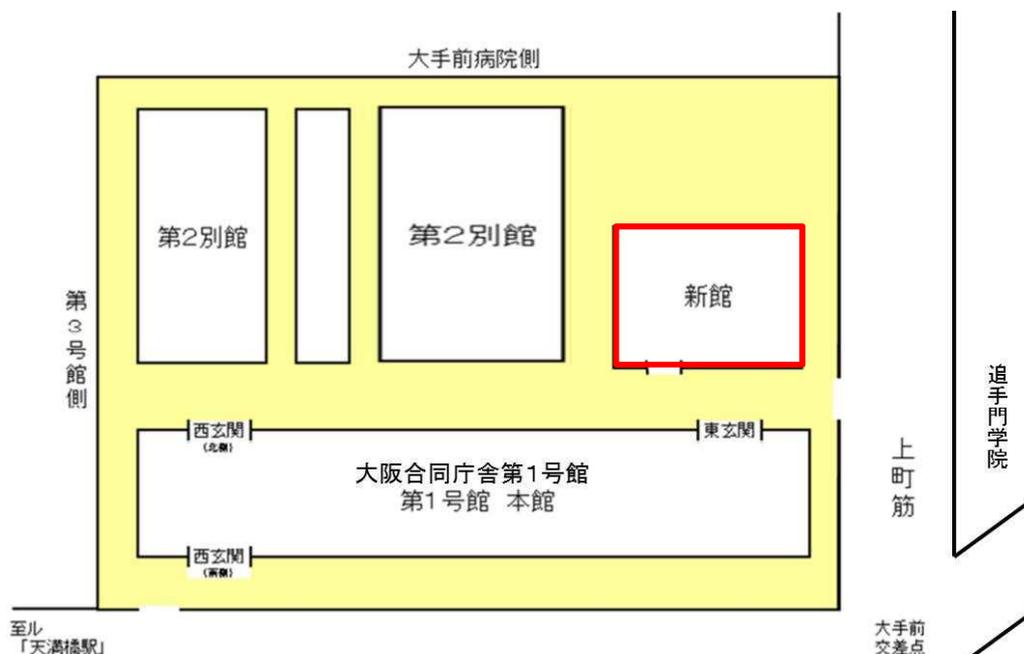
この節目の年に、大塚切れ以降、先人の取り組んだ治水、水防対策の苦勞に思いを馳せ、今日まで淀川本川では大規模な破堤氾濫が発生していないことに感謝するとともに、改めて洪水に備える意識を高揚させることを目的に関係機関が連携した取組を行うにあたり、以下のとおり記者説明会を開催します。

<淀川大塚切れ 100 年に関する取組>

- 9 月 1 日～ 14 箇所における淀川大塚切れ 100 年に関するパネル展示
- 10 月 1 日 8:30 ～ 9:10 I 「現場式典」※高槻市主催
- 10:30 ～ 12:30 II 「淀川サミット」
- 13:30 ～ 16:30 III 「淀川大塚切れ 100 年シンポジウム」

<記者説明会>

- ① 日時：平成 29 年 9 月 4 日（月）14:00～15:00
- ② 場所：大阪合同庁舎第 1 号館 新館 3 階 河川部補助会議室
- ③ 内容：大正 6 年洪水や大塚切れ、淀川大塚切れ 100 年シンポジウム等についてパネルにて説明

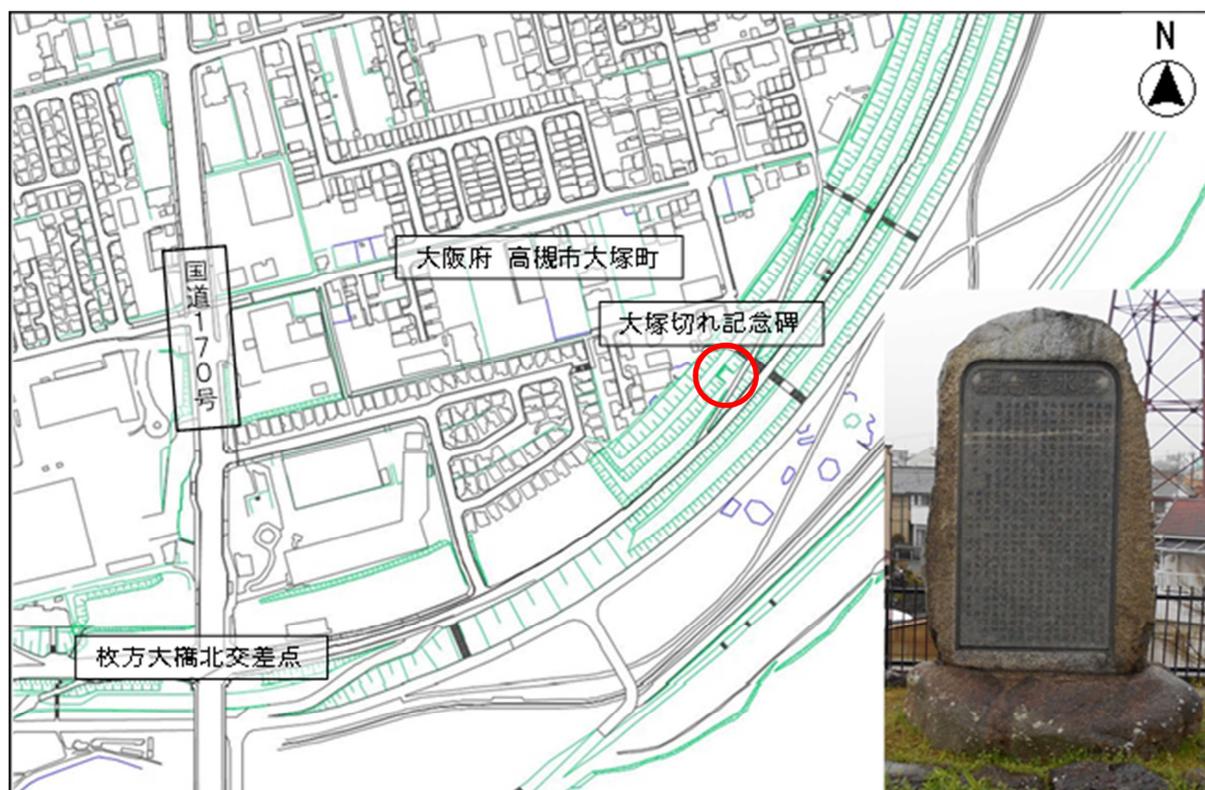


平成 29 年 9 月 1 日
高 槻 市

淀川大塚切れ100年「現場式典」の開催について

大正 6 年淀川大塚切れの破堤現場において、当時の苦勞に思いを馳せるとともに、その後 100 年間淀川本川が決壊せず、無事に過ごしてきたことに対し、国土交通省をはじめ、水防に携わられてきた方々へ感謝すること、併せて今後も安心して過ごせるよう、絶え間ない治水事業及び水防活動の実施を関係者ととも未来に向けて宣言します。

- ① 日 時 平成 29 年 10 月 1 日（日） 8：30～9：10 ※淀川大塚切れ発生日と同日
- ② 場 所 大塚切れ洪水記念碑前（大阪府高槻市大塚町） 淀川右岸堤防上
- ③ 出席者 高槻市長
淀川右岸水防事務組合
国土交通省 近畿地方整備局長、淀川河川事務所長
- ④ 内 容 大塚切れの説明（破堤範囲等）
未来への宣言



現場式典会場

明治から続く 洪水との戦い



明治18年(1885年)、淀川で未曾有の大洪水が発生しました。
淀川の堤防が次々に決壊し、大阪市内の大半が浸水する大水害となりました。
これを契機に、わが国最初の本格的な近代治水工事、
淀川改良工事が始まりました。

毛馬洗堰・毛馬第一閘門 明治43年(1910年)

淀川改良工事

[明治29年(1896年)～明治43年(1910年)]

明治29年(1896年)から淀川改良工事がスタート。
下流で川幅を拡げ、洪水を流れやすくし、
上流で調節施設を整備することで、
中流の改修も進め、
流域全体の安全度が向上しました。



新淀川の開削

凡例 新淀川開削計画

新淀川の開削

流下能力を増やし、
水位を低下させるために、
淀川下流部を
一本の直線的な川に改修



宇治川の付け替えと巨椋池分離

巨椋池の分離

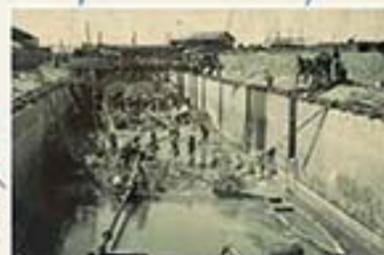
天王山と男山との狭窄部での
洪水被害を軽減させるため、
宇治川を付け替え、巨椋池を分離



南郷洗堰(明治38年(1905年))

南郷洗堰設置

琵琶湖からの流出量を調整するため、
南郷洗堰(旧瀬田川洗堰)を設置



工事中の毛馬第一閘門

毛馬閘門設置

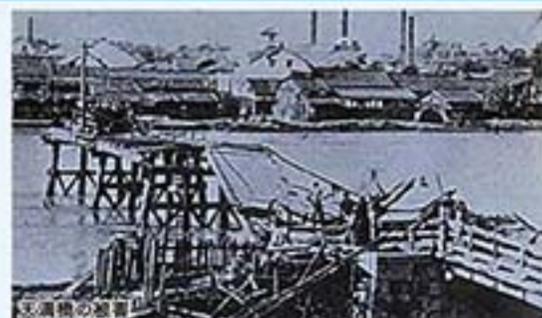
大阪市内に流入する水量の
調節と船の運航を目的とした
毛馬洗堰・閘門を設置

明治18年(1885年)の大洪水

決壊箇所222カ所・浸水家屋71千戸・流失家屋
16千戸・被災人口約28万人。
天満橋・天神橋・難波橋・淀屋橋など旧淀川筋の
橋梁が流失しました。



枚方市伊加賀切れ



天神橋の被害



淀川の堤防 200m 決壊 (大塚切れ)

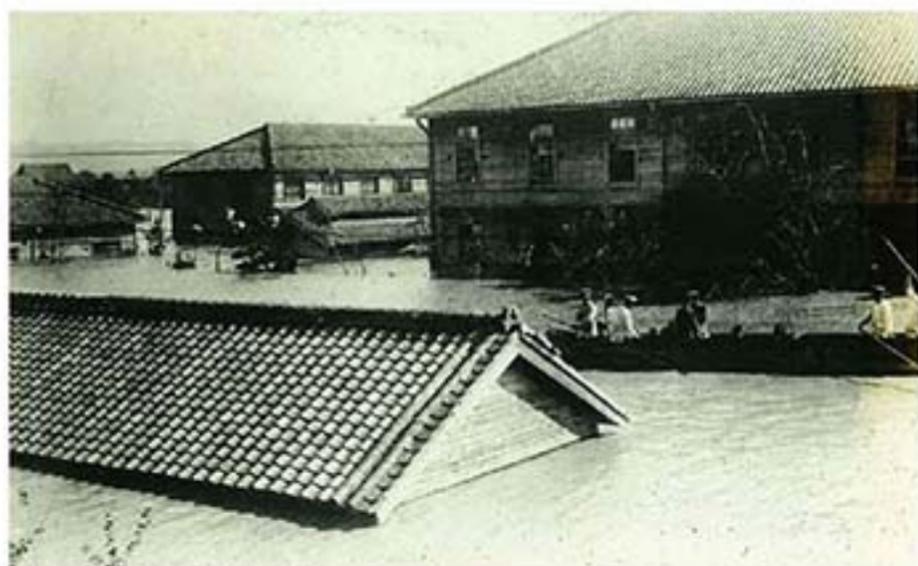


大正6年(1917年)10月1日、台風による連日の大雨で淀川の水位が上昇し、大冠村(現在の高槻市大塚地先)の堤防が200mにわたって決壊しました。氾濫した水は、西成郡(現在の大阪市西淀川区)まで到達し、甚大な被害をもたらしました。

決壊箇所[淀川右岸 大冠村大塚]



十三 三國付近



高槻工兵隊兵舎の浸水状況



北河内郡牧野村の惨状



高槻町横町付近の救助筏



十三停留所付近



神島村付近堤上避難



淀川堤防上の避難民



堤防を開削し 氾濫水を川へ (わざと切れ)

淀川右岸最下流の西成郡(現在の大阪市西淀川区)まで広がった洪水は下流部に洪水を排水するための出口が無かったため、淀川改良工事で整備された新淀川の堤防を開削。そこから大阪湾に洪水を逃がしました。



堤防開削[淀川右岸 福村]



わざと切れの碑(大阪市西淀川区)



大正6年(1917年)10月2日
大阪朝日新聞



大正6年(1917年)10月3日
大阪朝日新聞

大正6年(1917年)大洪水 被害概要

被害一覧表(大阪府)

	人的被害 (人)			家屋被害 (戸)					耕地被害 (町歩)	道路損壊 (箇所)	橋梁流失 (箇所)	堤防決壊 (箇所)
	死者	負傷者	行方不明	全壊	半壊	流失	床上浸水	床下浸水				
三島郡	1	13	3	172	301	46	3,524	1,649	3234.4	238	27	52 (1480町)
西成郡		9		19	8	10	9,161	1,520	1950.4	2,444	84	19 (352町)
北河内郡				21	7	16	163	116	60.6	90	4	19 (717町)
合計	1	22	3	212	316	72	12,848	3,285	5245.4	2,772	115	90 (2545町)

淀川左岸水害予防組合誌中編(大阪府警察部調査)より



人力による 復旧工事

10月1日に破堤した堤防を復旧するため、10月6日から堰止め工事を開始しました。ただその間も雨が続いたため、工事が遅れ、11月7日に堰止め工事が完了。機械ではなく、人が杭を打ちながら作業したこの復旧工事は38日間もの日数を要しました。

決壊箇所堰止め工事完了 三島郡大塚村大塚

堤防復旧工事の様子



大塚地区 決壊箇所締切工事



淀川出水破堤神崎川堰止め工事



西成郡新庄村の防震工事



大塚切れの堰止め工事(門川治三郎の挿絵より)



大塚決壊箇所締切復旧の状態

浸水をめぐる 上下流対立

堤防復旧工事のために、上流の琵琶湖の流出を抑制するため、南郷洗堰の堰を閉めました。このことにより、琵琶湖沿岸の耕地2000haが浸水。復旧工事は38日間にもおよび、その浸水をめぐって上下流の利害の対立が明らかとなりました。

復旧工事の経緯と琵琶湖水位

日付	工事概要	琵琶湖水位
10/1	午前10時破堤 南郷洗堰：堰桁100本挿入	BSL+0.71m
10/6	鴻池組(大阪府発注)による大塚地区堰止め 工事開始 (延長約500m 平水位+1.2mの仮堤防整備)	BSL+1.07m
10/11	降雨による増水 工事中止	BSL+1.05m
10/12	工事再開	BSL+1.21m
10/17	数百人の大津市沿湖民大会による抗議	BSL+1.27m
10/19	南郷洗堰：堰桁10本撤去	BSL+1.33m
10/21	南郷洗堰：堰桁25本撤去	BSL+1.36m
10/23	残り55mとなったところで降雨による増水	BSL+1.30m
10/26	増水に伴い、大塚地区仮堤防流出 午後より、2回目の大塚地区堰止め工事開始 南郷洗堰：堰桁22本挿入 ※内務省から下流広瀬の水位が1.65mに下がらなければ 堰桁は抜かないとし、滋賀県知事を説得	BSL+1.27m
11/7	大塚地区堰止め工事完了	BSL+1.24m

B.S.Lとは…琵琶湖の基準となる水位(Biwako Surface Level)、琵琶湖にある5箇所の水位観測所の水位の平均値。



南郷洗堰
(旧瀬田川洗堰)

大正6年(1917年)
10月21日
大阪毎日新聞

下流の堤防復旧のため南郷洗堰への堰桁投入。その後琵琶湖水位は上昇し、琵琶湖沿岸の耕地2000haの浸水を巡り対立。



繰り返す 洪水被害

昭和以降も大雨による洪水被害は度々発生しており、昭和28年(1953年)の台風23号では死者・行方不明者178名の被害が発生しました。最近では平成25年(2013年)の台風18号で京都市嵐山周辺および久我橋下流では越水による浸水被害が発生しました。

約450m
破堤

宇治川

近鉄奈良線

観月橋

昭和28年台風13号

死者・行方不明者178名以上の被害が発生した

昭和28年(1953年) 台風23号

死者・行方不明者/178名
浸水家屋/約56,000戸



淀川三川合流付近

平成25年(2013年) 台風18号

床上浸水/55戸、床下浸水/38戸

昭和34年(1959年) 伊勢湾台風

死者・行方不明者/47名
浸水家屋/約38,000戸



加茂町船屋地区の浸水状況



府道京都市宇治線の浸水状況



京都市久我橋付近

命を守るために、
どうするか!!



淀川流域の治水と地域の未来を考える

淀川大塚切れ 100年シンポジウム

大塚切れ阻止状況(現・高槻市大塚町)

高槻工兵隊兵舎(淀水校区(現・高槻市城内町))

日時 平成29年 **10月1日(日)**
13:30~16:30

場所 **高槻現代劇場 文化ホール(中ホール)**
高槻市野見町2-33

内容
 講演 / 濱田 剛史 氏 [高槻市長]
 基調講演 / 藤森 涼子 氏 [NPO法人 気象キャスターネットワーク 理事長]
 淀川三十石船舟唄 / 淀川三十石船舟唄 大塚保存会
 パネルディスカッション / コーディネーター: 松尾 一郎 氏
 [CeMI環境・防災研究所 副所長、
 東京大学大学院情報学環 客員教授]

入場無料
先着600名



ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

同時開催 **みんなで防災について 見て、学んで、体験しよう!!**
11:30~15:30 / 高槻現代劇場 文化ホール前広場

参加無料

浸水体験施設
水中歩行体験



災害時に活躍する車
災害対策車の展示



防災についてわかりやすく学べる
防災アプリ



共催 高槻市、淀川大塚切れ100年イベント実行委員会、淀川右岸治水促進期成同盟、一般財団法人自治総合センター

問合せ 072-674-7432(高槻市都市創造部下水河川企画課)

<http://www.otsuka-100th.jp>

このシンポジウムは全国モーターボート協会連合会からの協賛を受けて実施するものです。



淀川大塚切れ100年イベント実行委員会